

青梅市文化財ニュース

第 1 2 0 号

平成 9 年 1 0 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

青梅市内の地酒

秋は日本酒のおいしい季節である。月を眺めながら一献かたむけるのも乙なものである。

現在、市内には蔵元が 2 場あり、澤乃井と酔悦の商標で地酒が売られている。広く東京都全域を見ると、14 の地酒がある。そのうち区内は北区に 1 場だけで、他は全て多摩地区、内訳は八王子 3、青梅・福生・あきる野各 2、それに狛江・府中・東村山・武蔵村山各 1 という具合である。“水” がキーポイントなのだろう。

ところで、青梅市内でも明治 10 年代まで時代をさかのぼると、もっと多くなり、その数 15 場の酒造場があったのである。

明治 10 年代に編さんされた皇国地誌および近年行った聴取調査によって醸造高・酒造場のあった場所を記すと次の通りである。

青 梅 町 …… 806 石 8 斗 3 升 6 合、現在と同一場所。

西 分 村 …… 50 石、住吉神社近く、三好屋釣具店の場所（西分 2-61）。

千ヶ瀬村 …… 96 石、千ヶ瀬町 6-892・井上喜平氏宅。

下長淵村 …… 60 石、現八木燃料店（長淵 3-303）近くの、屋号「おこざ」という家で造っていた。

上 長 淵 …… 100 石、長淵 6-400・中村保男氏宅。

下 村 …… 200 石、梅郷 4-629 の場所で、内村源十郎で造っていた。「寵花」「満開」という銘柄。昭和 19 年企業整備で廃業。現在もレンガ造りのエントツが残っている。

柚 木 村 …… 皇国地誌に記載はなく聴取調査による。200 石、柚木町 3-692 野村豊氏宅。銘柄は「吉野」「御嶽誉」。昭和 19 年廃業。

二 俣 尾 …… 150 石、下宿（番地不詳）で造っていた。

澤井上分村・下分村 …… 250 石、現在と同じ場所。

黒 沢 村 …… 183 石 3 斗、黒沢 2-794・柳内金三氏宅（現柳内酒店）。

井戸が現存する。

南小曾木村 …… 20 石、現在の市立 7 小学校裏（北）側、現在何も残っていない。

下成木上分村…120石、成木2ー313・岡田屋酒店の場所。井戸が残っている。

師岡村……11石1斗5升、現山崎醤油店で以前造っていた。

大門村……皇国地誌には記載はないが、聴取調査によると、吹上地内で操業していた五十嵐氏（新潟県出身）が、明治35年ころ、大門（現慶友病院）地内に移転し、造るようになった。五十嵐酒造場は戦後まで操業していた。

新町村……5石、新町404の志村欣吾氏宅で、曾祖父の代に創業した。現在、井戸も残っている。

これらの酒造場が、いつごろから操業を開始したものなのか、今後調査すべき点が多い。しかし操業の背景を分類すると、①地主が小作米を加工し、より多くの収益をあげようと杜氏を招いて開業したもの、②①の酒造場に来ていた杜氏が地元に住みつき開業したもの、③その他に分けられる。

市内にこれだけあった酒造場であったが、第二次世界大戦の激化に伴ない行われた、昭和19年の企業整備のため、さらに戦後の経済変動の波を受けて現在のような状態になってしまった。

（文責 川鍋）

＊ 青梅市郷土博物館では、現在特別展「地中からのいぶき＝市内から出土した名品の数々＝」を開催しております。

平成9年11月23日（日）まで 入館無料 月曜日休館

＊ 青梅市教育委員会発行の新書籍のご案内

- ・特別展『地中からのいぶき』展示図録 頒価 800円
- ・『青梅市仏像彫刻調査概報 Ⅲ』 頒価 500円
- ・『武蔵御嶽神社所蔵 国宝 赤糸威鎧』

ー調査考察・復原模造報告書ー 頒価2,800円

いずれも郷土博物館、教育センターにて販売しております。